



おとなの映画館

「痛くない死に方」

(高橋伴明監督、日本映画)

兵庫県尼崎市を拠点に在宅医療などに取り組む医師、長尾和宏さん(62)は、自身で車を運転して往診する。また、「身近なかかりつけ医」の質の向上に取り組み、阪神大震災の発生(1995年)を機に、芦屋市立病院の内科医長を辞して開設したクリニックには、専門医が勤務して生活習慣病やがんの早期発見に力を入れる。現在は「在宅医療ステーション」と、ケアマネジャーが在籍する「居宅介護支援事業所」も併設。訪問看護、ケアマネジメントを含め、チームで在宅ケア、外来、予防医療の充実を図り、「自宅で最期を迎えた患者さんは1000人を超えた」という。

そんな地域医療の実践者をモデルに、終末期医療の一つのあり方を描いたのが今作だ。長尾さんの2冊の著書(『痛い在宅医』「痛くない死に方」)をベースに、高橋伴明監督(71)が自ら脚本を手がけた。

体にチューブを差し込み、大量の薬を投与される病院での延命治療ではなく、在宅での「痛くない」治療を選んだ肺がん患者が、在宅医である自分の未熟な対応で苦しみながら息を引き取つた――。

その悔恨の念にさいなまれる主人公が、新たに担当したのが、末期の肝臓がん患者。持ち前のユーモアで周囲を笑わせ、川柳も詠む。果たして今度は患者が苦しまないみどりができるのか。在宅医役は俳優の柄本佑さん。「明るいがん患者」は宇崎竜童さん、その妻は大谷直子さんがふんし、「カルテではなく人をみろ」とアドバイスする先輩在宅医は、奥田瑛二さんが演じている。

高橋監督といえど、近年は連合赤軍事件や袴田事件などを題材にした社会派作品で知られる。「私自身、60代半ばを過ぎて、死の問題を意識するようになつた」とはいえ今は、「(終末期医療という)与えられた課題をどう表現するかに力を注いだ」と語る。

東京や大阪などで公開記念イベントで、高橋監督とともに登壇した長尾さんは、「誰しも穏やかに最期を迎える。けれども、大勢の人が病院で管だらけになって死を迎える。終末期医療については尊厳死と安楽死の違いを正確に答えられる人は医師でも少ないと思う」と実情を話した。「病院でも、自宅でも、最期までその人らしく生きられることが僕の願い。この映画を若い医師にも見てもらいたい」という。

112分。関東や関西など各地で上映中。

「その人らしい最期」をもたらす医療とは

兵庫県尼崎市を拠点に在宅医療などに取り組む医師、長尾和宏さん(62)は、自身で車を運転して往診する。また、「身近なかかりつけ医」の質の向上に取り組み、阪神大震災の発生(1995年)を機に、芦屋市立病院の内科医長を辞して開設したクリニックには、専門医が勤務して生活習慣病やがんの早期発見に力を入れる。現在は「在宅医療ステーション」と、ケアマネジャーが在籍する「居宅介護支援事業所」も併設。訪問看護、ケアマネジメントを含め、チームで在宅ケア、外来、予防医療の充実を図り、「自宅で最期を迎えた患者さんは1000人を超えた」という。

そんな地域医療の実践者をモデルに、終末期医療の一つのあり方を描いたのが今作だ。長尾さんの2冊の著書(『痛い在宅医』「痛くない死に方」)をベースに、高橋伴明監督(71)が自ら脚本を手がけた。

体にチューブを差し込み、大量の薬を投与される病院での延命治療ではなく、在宅での「痛くない」治療を選んだ肺がん患者が、在宅医である自分の未熟な対応で苦しみながら息を引き取つた――。

その悔恨の念にさいなまれる主人公が、新たに担当したのが、末期の肝臓がん患者。持ち前のユーモアで周囲を笑わせ、川柳も詠む。果たして今度は患者が苦しまないみどりができるのか。在宅医役は俳優の柄本佑さん。「明るいがん患者」は宇崎竜童さん、その妻は大谷直子さんがふんし、「カルテではなく人をみろ」とアドバイスする先輩在宅医は、奥田瑛二さんが演じている。

高橋監督といえど、近年は連合赤軍事件や袴田事件などを題材にした社会派作品で知られる。「私自身、60代半ばを過ぎて、死の問題を意識するようになつた」とはいえ今は、「(終末期医療という)与えられた課題をどう表現するかに力を注いだ」と語る。

東京や大阪などで公開記念イベントで、高橋監督とともに登壇した長尾さんは、「誰しも穏やかに最期を迎える。けれども、大勢の人が病院で管だらけになって死を迎える。終末期医療については尊厳死と安楽死の違いを正確に答えられる人は医師でも少ないと思う」と実情を話した。「病院でも、自宅でも、最期までその人らしく生きられることが僕の願い。この映画を若い医師にも見てもらいたい」という。

スパイ関三次郎事件 戦後最北端謀略戦

佐藤哲朗著

敗戦後の混乱期、日

本最北端の北海道宗谷村(現稚内市)に流れ

着き、旧ソ連の密入国

工作員に疑われて逮

捕、起訴された関三次

郎は、実はG H Q(連

合軍司令部)占領下の

日本で活動していた米

C I C(陸軍諜報部)

のスパイだった――。

謎に包まれたこの事件

佐藤哲朗
戦後最北端謀略戦



スパイ 事件 関三次郎

「日米謀略」の真相に迫る

BOOK REVIEW

イに仕立てられてしまったのか。刑期を終えた関は、旭川の市営住宅で生活保護を受けながらひつそりと暮らしていた。1978年に76歳で死去したが、晩年に著者の延べ6回に及ぶインタビューに応じ、真相を告白した。

当時を知る法曹関係者らの証言も収集。C I Cの失策を隠ぺいしようとすると、米側の圧力を受け、「国策捜査」に身を投じた日本の元検察関係者らの存在が浮き彫りになる。

「この事件は、安倍晋三政権で成立した、集団的自衛権行使容認の安全保障関連法の源流にもなっている」と著者は指摘。「それを受け継ぐ現政権が目指すものは何か」と危機感を募らせる。

(明) 83ページ、2500円
+税。
※河出書房新社、2
国家保安委員会のスパイ

毎日フォーラム

政策情報誌

特集

スマート林業

霞が関人物録

茨城県

日本の選択

4月号



日本の近代建築

埼玉県

秩父市

旧秩父駅舎